

【例題－獣医師 1】

抗腫瘍薬に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. アルキル化薬のシクロホスファミドは、自身には活性がなく、肝臓で代謝されて効果を発揮する。多くの抗腫瘍薬とは異なり、経口薬としても用いられる。
2. 白金錯体のカルボプラチンは、チューブリンと結合することにより細胞の分裂をM期で阻害する。副作用として強い腎毒性が見られる。
3. プレドニゾロンは、抗エストロゲン作用を示すので、乳腺腫瘍の治療に用いられる。
4. イマチニブは、分子標的薬の一つで、腫瘍に対するモノクローナル抗体である。副作用として頻繁に心毒性が見られる。
5. 5-フルオロウラシルは、プリン代謝に拮抗してアミノ酸の合成を阻害する。また、細胞内で代謝された後にテトラヒドロ葉酸の生成を阻害する。

(正答) 1